

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名：服部 卓也

<b>事業名</b> 連続立体交差事業 東武鉄道野田線（清水公園駅～梅郷駅間）	<b>事業区分</b> 連続立体交差	<b>事業主体</b> 千葉県
<b>起終点</b> 自：千葉県野田市清水公園 東 至：千葉県野田市花井新田	<b>延長</b>	2.9km
<b>事業概要</b> 本事業は、東武鉄道野田線の清水公園駅から梅郷駅間の約2.9kmにおいて、鉄道を高架化することにより11箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、安全・安心のまちづくりや分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。		
H19年度事業化	H17年度都市計画決定	H20年度用地着手
<b>全体事業費</b>	約442億円	<b>事業進捗率</b>
		約70%
	<b>供用済延長</b>	2.9km
<b>計画交通量</b>	222,734台時/日（踏切自動車交通遮断量）	
<b>費用対効果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.2  (残事業) -	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) -/478億円 事業費： -/462億円 維持管理費： -/16億円
	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) -/560億円 移動時間短縮便益： -/487億円 走行経費減少便益： -/64億円 交通事故減少便益： -/8億円	<b>基準年</b> 令和4年
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.2（事業期間±2年）		
<b>事業の効果等</b> ① 救急搬送時間等の短縮 野田市の緊急搬送は小張総合病院とキッコーマン総合病院が約7割を担っている。この2つの病院と接続する主要な幹線道路の踏切が除却されることにより、搬送時間の短縮が期待できる。 ② 災害時における長時間遮断の回避 踏切除却により、大震災などの大規模災害発生時における長時間の踏切遮断による交通阻害がなくなり、災害物資の輸送、緊急車両の通行等のための災害に強いネットワークが確保される。 ③ 新たなまちづくりによる地域の活性化 鉄道の高架化にあわせ、愛宕駅、野田市駅の駅前広場や土地区画整理事業、都市計画道路を一体的に整備することにより、交通結節機能が強化されるとともに、新たなまちづくりによる地域の活力や魅力の向上が期待される。		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 野田市より、事業促進の要望（令和4年8月）を受けている。		
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業継続を妥当と認める。		
<b>事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等</b> 高架化した愛宕駅、野田市駅周辺では、市街地の活性化を図るため、駅前広場整備や土地区画整理事業が進められている。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 用地取得率約99%、事業進捗率約70% 令和3年3月に高架切替が完了。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 野田市駅において高架橋2次施工を推進しており、令和8年度までの事業完了を目指し事業を推進していく。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。		
<b>対応方針</b>	事業継続	

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



	連続立体交差事業
	土地区画整理事業
	都市計画道路
	駅前広場
	県道
	ボトルネック踏切 (除却済)
	踏切 (除却済)



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。